

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立柏里小学校の結果概要

国語科における本校の平均正答率は49%であり、大阪市の平均正答率59%を10%下回る結果であった。算数科においては、本校の平均正答率は46%で、大阪市の平均正答率56%を10%下回る結果であった。

どちらの教科も大阪市の平均を大きく下回っている。学習指導要領の内容・領域・区分別や、評価の観点ごとに見ても、すべての区分で大阪府を下回っている。無解答率が大阪府平均と比べて高く、国語科の選択問題においては無回答がない問題があったが、漢字の書き取りや自分の考えを書く問題が特に無回答率が高かった。算数科においても求め方を数や言葉・式等で表す問題において無回答率が高かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】これまで読書環境の充実、読書活動の推進、「第一教育ブロックの学力向上推進事業」の一環として実施している漢字検定の受検など、国語科の基礎となる基本の習得に継続的に取り組んできた。選択式・短答式の一部の問題においては、正答率が大阪府平均とくらべてもあまり差がない問題があった。記述式の問題2問においては、1問は正答率は低いものの、大阪府平均と0.1%の差しかなかった。「国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」の質問紙調査では、4分の1以上が「解答しなかった、書くことを途中であきらめた。」と回答しているものの、64.7%が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している。

【算数】算数科においては、すべての区分で正答率が大阪府平均を下回っているものの、短答式の問題では一部、大阪府平均との差はあまり大きくない問題があった。学習指導要領の領域別で見ると、「図形」区分において大阪府平均との差が一番小さい。「単位量あたりの大きさ」や「分数」の問題においては10%以上の差があった。解答時間については、「時間が余った」「ちょうどよかった」の回答が9割を超えているので、大阪府平均よりも10%下回ってしまったのは、問題をよく読めていないことがその理由として考えられる。

質問調査より

すべての質問に対して「最も肯定的・どちらかといえば肯定的」の回答率が例年にくらべて低いことがわかる。

「人が困っているときは、すすんで助けていますか。」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」に対する肯定的な回答は大阪府・全国を上回っている。ただ、「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目に対する肯定的な回答が大阪府・全国を下回っている。

「普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）。」の項目では2時間以上と回答している割合が7割近く、その中でも4時間以上と回答している割合は3割を超える。「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の項目に全く勉強をしないと回答した割合が1割以上、また、読書は全くしないと回答した割合は4割を超える。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。」の項目に「全くしない」と回答した割合が3分の1いることがわかった。

「朝食を毎日食べていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」に肯定的な回答をする割合が今年度も高く、家庭での基本的生活習慣は一定数、身につけていると思われる。

今後の取組（アクションプラン）

昼のチャレンジタイムや放課後学習に引き続き取り組み、基礎・基本の定着を図っていく。特に今年度は基礎・基本の定着を図るための研究も実践している。ブロック化による学校支援事業、西淀川区の学力推進事業・校長経営戦略支援予算による漢字検定(4・6年生)、英検ジュニア検定(3・5年生)の継続、及び朝日デジタル新聞を活用した取り組み(5年生)により、読解力と学びに向かう力を育成し、子どもたちの主体的な学びへとつなげていく。「学力向上支援チーム事業」の一環として実施している「学びサポーター」の活用により引き続き個に応じた指導を実施していく。また、「スクールアドバイザー」の学校訪問により、研修や授業改善を図る。ノートのとりかたや発問の工夫など、学級や学年、また、学校全体で教材研究に時間をかけて取り組み、学力の向上を図る。1人1台端末を用いて、デジタルドリル等の積極的な活用を図る。